

育英生からのお便り

日本で一番感じられた文化と

善光寺との出会い

アイーダ・ママードウア

(第二十二回育英生)

私はアゼルバイジャン人のイスラム教徒で二〇〇九年四月より国立金沢大学院医学系の博士課程に入学しているアイーダ・ママードウアです。私はアゼルバイジャンの首都バクーに住み、バクー国立大学の生化学部からその大学院修士課程を修了し、修士のときイギリスに二年間留学しました。

私は、子供のころからイスラム教徒の教育を

受け育てられた子でした。学校以外に、自分一人で行けるところは家の近くにある古い図書館だけでした。図書館で働いているお婆ちゃんは私のことが大好きで、いつも一番いい本を薦めてくれました。しかし、ある日、そのお婆ちゃんには私に仏陀の本を貸して、これは内緒で、この本を誰にも見せないでと約束しました。その本を読んだ後、仏陀への興味と感心はずっと続きました。そこから、さらに仏教への興味と感心がつながっていきました。

図書館で仏教に関する本ばかり読み始めて、日本の文化の背景である日本仏教にも興味深くなりました。しかし、日本の文化を本から読んでも、分からなかった。仏教を知的に理解できない。いくら本を読んでも分からなかった。大きな壁にぶつかったような感じでした。その壁を乗り越えるために、仏教を体を通して、体験的に学習したいと思うようになりました。そ

のために、どんな難しくても、実際に日本へ行って、日本の文化や日本の仏教を体で体験することを強く決意しました。

修士課程を修了したあと、両親の猛烈な反対を押し切って日本へやって来ました。日本へやって来た私は、福井県の永平寺、神奈川県、石川県の總持寺をはじめ、多くの寺院を歴訪しました。そして、これらの寺院を歴訪するうちに、寺院に止宿して、仏教を学習しようという想いがだんだんと募ってまいりました。けれども、この希望は、そう簡単にはかなえられそうにはありませんでした。

私の願いを受け入れてくれたお寺は、石川県金沢市の大乗寺だけでした。大乗寺の東隆眞ご住職様です。東ご住職様は私がイスラム教徒であることを前提として、あなたが希望するならばあなたの仏教への興味と関心を体験的に学習することを、この大乗寺で許可するとおっしゃ

っていたきました。そこで二〇〇七年四月より、私は大乗寺に入り、毎朝午前四時三〇分から坐禅、朝のおつとめ、作務など、ほとんど大乗寺の雲水と同じ生活を学習していました。ある朝、大乗寺できれいな尺八の音が聞こえました。お寺の静かな景色の中で、尺八の音は心を鎮めるように響いていました。私はあの音にびっくりし、尺八の練習をやり始めました。今でも、毎日学校へ尺八をふきながら通っています。

私は大乗寺で生活し、仏教、禅などは神経障害や精神的に崩れた人たちにも、きわめて有効な力を発揮するのではないかと思うようになりました。それで、金沢大学の神経科学や意識の専門分野へ入学しました。しかし、勉強を続けるために経済的に非常に困難な状態でありました。大学で勉強しながらできるだけアルバイトに時間を費やしたくないと考えておりました。ある日、大乗寺で横浜善光寺のご住職様黒田老

師と出会いました。善光寺には日本で留学している、あるいは日本から海外へ留学している僧達を支える横浜善光寺留学僧育英会があることを聞きました。自分はお坊さんじゃないですけど、仏教を学びたい気持ちはとても強かったので、第二十二回育英生になりました。善光寺の育英会に支えられて、助けられました。善光寺と出会うことができてとてもよかったと思います。

私はさらに日本の文化や仏教を身につけるために、お釈迦様や菩提達磨の教えに基づいて日本武道である少林寺拳法も始めました。毎日大学が終わったあと、道場へ通って、稽古し、武道大会にも参加するようになりました。最近、初段の黒帯になりました。また、合気道や居合の稽古も始めました。現在は大学の博士課程の四年生です。大学を卒業した後は、日本で修得した日本の文化を、社会に役に立てるような人

間になりたいと思います。それで、日本や母国アゼルバイジャンの文化的な交流をもっと深めていきたい。社会に貢献できるような人間になるために、まず自分を育てて、自己確立したあと、人びとのことを理解し、世界平和のために役立ちたいと願っています。ありがとうございます。







懐かしい方々の写真が一杯

龍泉院 椎名 宏雄老師
千葉県

『成寿』第四十一号のご恵

与に感謝無極。晋山結制のご盛筵、心よりご慶賀申し上げます。特に豊富で美しき口絵は拝見するに懐かしく、篁師は院生時代の友人、光真寺様は同安居、大乘寺様は大卒当時からのご知己交友、そして故武志方丈様は泉岳寺様を通じての交誼でありました。そのまた御師父の白純老師は不肖の実父とは宗議の仲間同志。俊雄方丈が若き日に侍者とし

て師父様と共に拙寺に來山されたこともありませう。皆宗門の至宝。そして現董が立派に故方丈の衣鉢を相続。これに勝る至宝はありません。益々のご活躍を祈り上げませう。

育英会に南米の方からも

南アメリカ
曹洞宗両大本山別院 仏心寺
采川道昭老師

『成寿』拝受致しました。

晋山結制の盛栄洵にお目出度く、心よりお祝い申し上げます。

常々大変お世話になっておりますが、このところ多忙を理由に御無沙汰致しており、

誠に申し訳ございませぬ。

貴寺留学僧育英会の方にも御縁がありましたら南米の方からも応募させて頂き度く存知しております。その折はまた更に御法愛賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、尊大宗師益々御法身堅固にて寺門の更なる御繁栄を祈念申し上げます。御礼申し上げます。

御母堂様に何卒よろしく御風声下さいませ。



宮崎行学育英生奨学金を

ドイツ
ドイツ普門寺住職
中川正壽老師

皆様ご清祥にお過ごしのことと存じます。

さてこのたび普門寺ご開山、本山七十八世宮崎奕保禪師がご遺言としてこのドイツ普門寺に三度目として多額のご寄付を下さいました。以降どのような形で使わせていただくべきかを考えて参りました。結論は御遺意の全額をこの普門寺において『宮崎行学育英生奨学金』の基金とさせていただきますことになりました。

た。

昨春にあってはまだ予定の段階でありました冬四月の集中修行（私どもはクラウズールと名付けておりますが、坐禅中心の冬安居であります）をただいま勤めております。

私どもスタッフ三人のほかに四ヶ月修行するのはスイス人女性一人、一月、二月と二ヶ月参加するものはさらに男性二人、女性一人であります。昨年臘八撰心、年末六日間の歳代わりレトリート、そしてサンガ中心メンバーの撰心とそれぞれに十人、二十人の参加がありました。そして二月には三週間の涅槃会撰心

をいたします。奨学金は、これらを参加して安居を修行する四ヶ月また二ヶ月参加者で三十五歳以下の者を対象にいたします。いまのところ全費用の半額、例外として全額の支給としております。

昨年十一月より普門寺の実情にあつた四ヶ月安居をスタートいたしましたして、力強い手応えを感じております。これをもつて、随喜の参禅者はたとえ一人二人であらうとも、ドイツ普門寺はより一層ヨーロッパの地に根付いた道場になりました。大悲山経営の実情は、コースの参加者はそれ程増えず、このたび四ヶ月に

わたる安居を実施いたしましたので、この面さらに収入が減りますが、幸いいろいろなタイプの寄付の合計が年間数百万円になりますので、赤字すれすれのところで均衡しております。これらの寄付は私どもの活動への支援であり毎年少しずつ増えておりますので、門戸を開きつつもより一層坐禅弁道に勤めたく存じます。

日頃明るいニュースの少ない昨今ですが、ヨーロッパ・ドイツの片田舎より一筆啓上申し上げます。

どうぞご健勝の上さらなるご活躍を祈念申し上げます。

御高德を継承され御精進を

天嶽院住職 嶋崎興道老師

藤沢市

萬山緑翠の好季節益々接化無辺の趣き大慶至極に存じ上げます。

『成寿』第四十一巻有難く拝受致しました。篤くお礼申し上げます。

此度晋山式を挙行された由心よりお祝い申し上げます。先代様の御高德を継承され御精進の御様子何よりも法悦至極に存じ上げます。

先代様、黙仙寺様共々尚春秋にとむ惜しい方が化を他界

れ、善光寺を前途洋々望むことができません。

どうぞ皆さま神戸にいらして下さい。ナリスの成寿殿には開基村岡満義、黒田大圓武志大和尚が祀られており、全国、海外からもお参りが絶えることがありません。ご案内します。

私も八十路の道程です。外出も容易ではありませんが、ゆっくり『成寿』を拝読して心安らかにしております。

皆さまお元気で達者にお過ごし下さい。有難う御座居ました。

純粹さと親しみ易さ

黛 亨様

いつも『成寿』ありがとうございます。毎回、個人的な表紙の絵、きれいなカラー写真をふんだんに取り入れ、紙質も良く、力を入れた編集となっております。感心させられます。

黒田武志方丈ご逝去されて、はや七年になりますね。早いものです。最初にお会いした時の方丈の童顔や親しみやすい人格が今でも鮮やかに浮かんできます。

宗教家として名の通った人は、どんな地位や名誉ある立場にあっても、押しなべて、子供らしい純粹さと親しみやすい庶民的性格をもっておられるようです。上がれば上がるほど、下がってくる、そういう方丈の人格が、私には、魅力でした。宗教の枠を超えたものを感じたのです。

方丈は、またいつも釈尊という原点に立ち返って、明恵上人のように釈尊を慕い、仏教の再興を願った、情熱溢れる宗教心の持ち主でもありました。そして「仏教は人にある」と見て、育英会を立ち上げられたのは正眼でした。方

さんをはじめ、皆様によりしくお伝えください。

大圓武志大和尚様が

バックで

平塚市
アンティーク青年会会長
山口義男様

なかなか温かくなりませぬね。此度は想い出となる「授衣式」に参列させて頂き又お写真をお送り下さり有難うございました。心より感謝とお礼を申し上げます。

親切丁寧な筆使いご性格そのままですね。ご挨拶の時は大圓武志大和尚様がバックで…私を含めほとんどの方が

思われた事と思いますが、私のはあのお言葉が「卒業論文」で新しい三世のご誕生と思っ
ています。新しい善光寺さん
を期待しています。この目で
見れる事を楽しみにしていま
す。

もう少しで温かい春がやっ
てくると思いますどうぞお
揃いでお体ご自愛ください。
いつもやさしく親切にして下
さる倫子様にも宜しくお伝え
下さい。

横浜市
東野光生様

【平成二十三年六月】

梅雨にさしかかる鬱陶しい
日々、相変わらず御精励の毎
日をお過ごしのことと拝察致
します。

過般は御多忙の中賞状をお
送り下さり洵に有難うござい
ました。

お陰様で展覧会も恙無く終
了し、震災後の時節にも拘わ
らず、来場者の数も殊の外多
かったことは幸いでした。

また頂戴した賞状は、月末
に開かれた九段のアルカディ

益々励まされた気持ちで

埼玉県行田市
小野義彦様

さて、過日は、突然の来寺にもかかわらず、心温まる厚いおもてなしを賜りまして、深く感謝申し上げます。

博志老師、大奥様、そして若奥様の、それぞれ慈愛あふれる笑顔と御言葉をいただき、益々励まされた気持ちでおります。

なき方丈様との御因縁は、一言では申せませんが、今になっても、叱られているよう

な気持ちになることも、思わず笑いがこみ上げるようなこともあります。かつてロスアンジェルスにて元気な方丈様と共に、飲んだり食べたり、沢山の御土産を頂いたり、車で色々な所をご案内申し上げたり、観光でご一緒した時のことなどが、きのうの事のようになり、思い出されます。

前角老師や桐ヶ谷寺様のご縁も含めて、本当に有難いことと感謝申し上げます。

愚僧は近く、渡り鳥よろしく、少し暖かい国々に越冬を兼ね修行にまいります。皆様の

御法愛を励みに、精進に励む志を新たに致しております。

それでは、博志老師、大奥さま、若奥様はじめ善光寺山内の皆様様に於かれましては、どうぞご健勝にて、益々のご多幸とご発展を心より祈念申し上げます。合掌





*The story of Girellans
9th century*